

東アジア文化都市2019への応募について

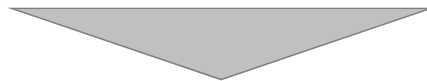
【東アジア文化都市事業とは】

日中韓3カ国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、現代の芸術文化から伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベントを実施するもの。

これにより、

- ①東アジア域内の多彩な文化の国際発信力の強化を図ること、
- ②当該都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業の実施を契機として継続的に発展することを目指す。

これを豊島区で開催することは、「国際アート・カルチャー都市」としての機運の向上とともに、国内外における都市の認知の促進に資すると考えられる。



平成29年（2017）に実施される予定の
 平成31年（2019）の開催都市選考に応募

平成31年（2019年）、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の前年に国際アート・カルチャー都市として進化した豊島区の姿を披露

【これまでの東アジア文化都市 開催都市】

開催年	日本	中国	韓国
平成26年（2014）	横浜市	泉州市	光州広域市
平成27年（2015）	新潟市	青島市	青州市
平成28年（2016）	奈良市	寧波市	濟州特別自治道
平成29年（2017）	京都市	長沙市	—
平成30年（2018）	金沢市	—	—
平成31年（2019）	豊島区	—	—

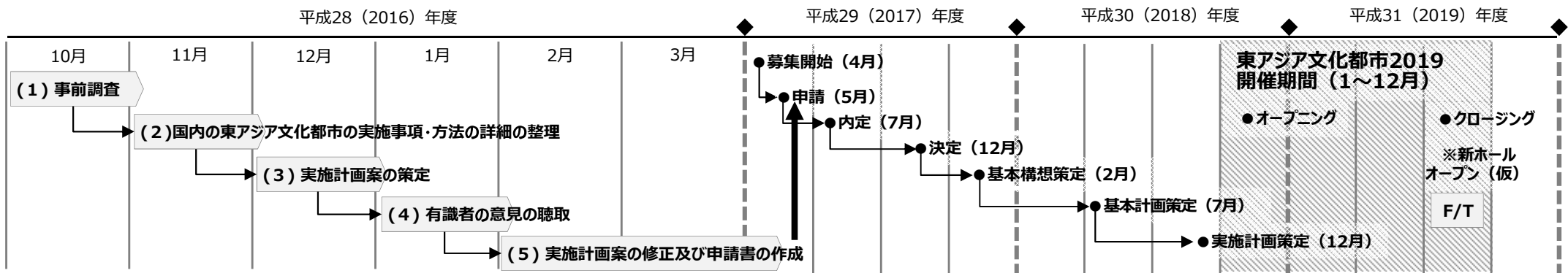
これまでの開催都市の特徴

- 文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）を受けている。
- 大型の文化イベントを開催している。
- 文化財が充実している。

豊島区は、平成20年度に文化庁長官表彰を受け、フェスティバル/トークョーなど大型の文化イベントを開催しており、採択される可能性が十分にある。

【豊島区実施スケジュール案】

- 実行委員会方式で実施する。開催準備、実行委員会運営にかかる事務局機能として、29（2017）年度は5名程度、30（2018）年度は、7～12名程度の人員が必要
- 文化庁への申請にあたっては、具体的な内容の提案が求められており、各都市の取り組みを参考としながら、早急に内容を検討する。調査及び申請支援業務を外部委託経費（10,000千円）



文化庁が行う文化交流の国家プロジェクト 東アジア文化都市

豊島区は、平成29年（2017年）実施予定の、平成31年（2019年）の開催都市選考に立候補

1. 東アジア文化都市事業とは

日中韓3カ国において、文化芸術による発展を目指す都市を各国1都市選定し、その都市において、現代の芸術文化から伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベントを実施する事業

これにより、

- ①東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進すること、
- ②東アジアの多彩な文化の国際発信力の強化を図ること、
- ③当該都市がその文化的特徴を生かした事業を実施することで継続的に発展することを目指す。

3. 豊島区が東アジア文化都市を開催する可能性と意義

豊島区は、平成20年度に文化庁長官表彰を受け、フェスティバル/トーキョーなど大型の文化イベントを開催しており、採択される可能性が十分にある。

東アジア文化都市を豊島区において開催することは、

- ①中韓の都市において、豊島区の文化芸術を広く披露できる
- ②区内で多彩かつ魅力的な各国の文化に触れることができる
- ③多くの区民や学生などが企画や運営に参加することができる

国際アート・カルチャー都市の魅力を世界に向けてアピール

日本を代表する文化芸術創造都市としての地位を揺るぎないものに

豊島区がこれまで積み上げてきた文化政策の集大成

2. これまでの東アジア文化都市 開催都市

開催年	日本	中国	韓国
平成26年 (2014)	横浜市	泉州市	光州広域市
平成27年 (2015)	新潟市	青島市	清州市
平成28年 (2016)	奈良市	寧波市	濟州特別自治道
平成29年 (2017)	京都市	長沙市	大邱市
平成30年 (2018)	金沢市	未定	未定
平成31年 (2019)	豊島区	未定	未定

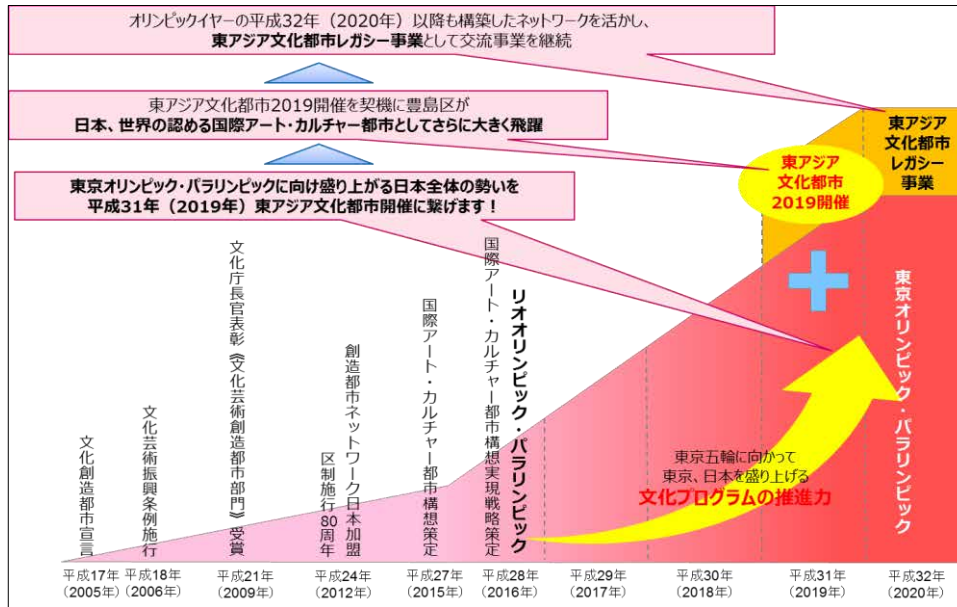
これまでの開催都市の特徴

- 文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）を受けている。
- 大型の文化イベントを開催している。
- 文化財が充実している。

4. 豊島区の事業コンセプト

(1) 世界の注目が東京に集中する2019年に、豊島区を世界に向けてアピール

- 東京ではオリンピック・パラリンピックの前年にさまざまな文化プログラムが行われ、世界の注目が集まっているなか、豊島区において開催することで国際アートカルチャー都市豊島区を世界に向けてアピールする。
- オリンピック・パラリンピックの開催年以降にも、構築したネットワークを活用し「東アジア文化都市レガシー事業」として交流事業を継続することで、世界が認める文化都市としてその地位を確固たるものにする。



(2) 区の特徴ある都市性の活用

- 世界第2位の乗降客数を誇る池袋駅前の都市空間と近接した住空間、江戸の風情の残る街並みなど、人口密度日本一の豊島区にしかない集積性・都市性を活かす。
- 劇場だけでなく公園や通りなど、まち全体を舞台に事業を展開することで、高い祝祭性を創出する。



(3) 大学・団体（企業・NPO等）との連携

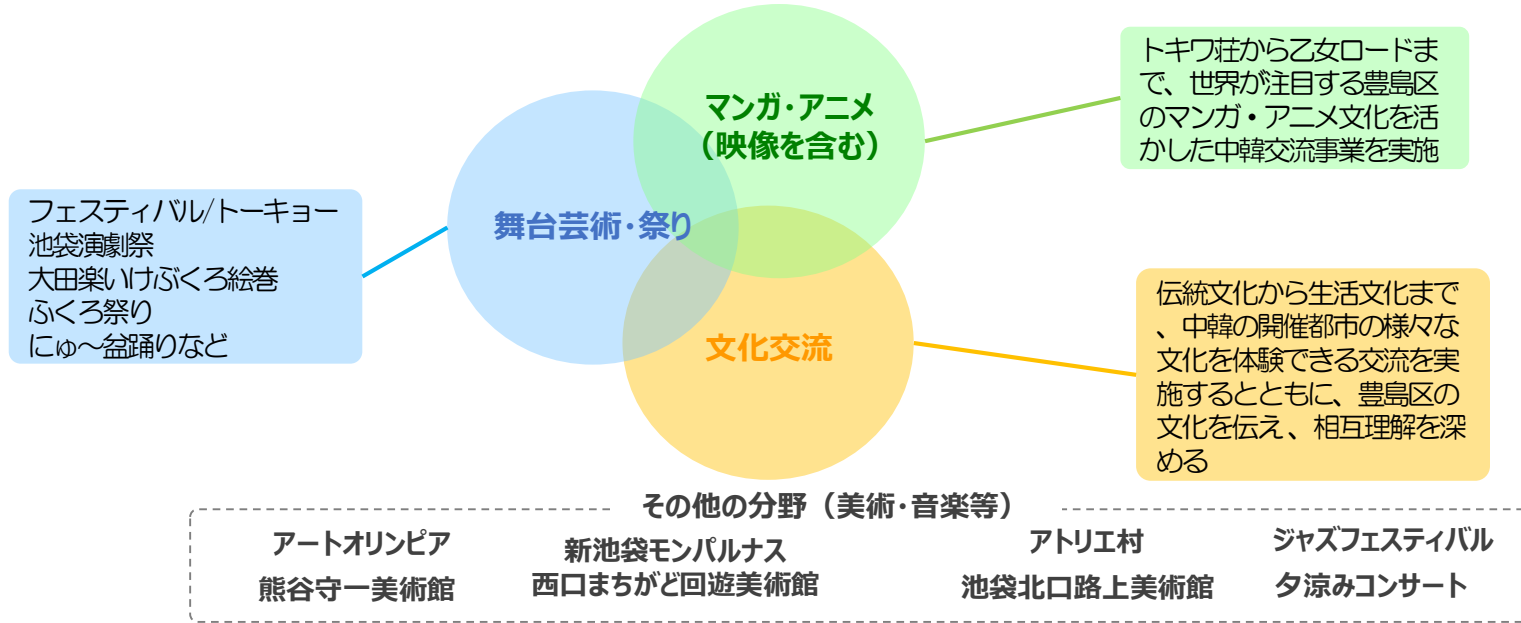
- 区内7大学が持つ英知、空間、学生の力を活かすとともに、中韓の大学との文化交流を展開する。
- また、豊島区に拠点を置く団体（企業・NPO等）も充実しており、企画から参加を促すことで、東アジア文化都市事業実施後も自律的に活動が展開する仕組みを構築する。

(4) 国内外の東アジア文化都市既開催地との連携

- 国内(横浜、新潟、奈良、京都、金沢)及び国外(泉州、光州等)の東アジア文化都市の既開催都市との連携事業を展開。
- またこれまでの事業で蓄積されたノウハウを最大限に踏まえて事業を企画・運営する。

5. 豊島区の事業イメージ

- 豊島区の文化資源である「**舞台芸術・祭り**」、「**マンガ・アニメ（映像を含む）**」を柱とし、美術等のその他の豊島区の魅力ある事業・施設なども関連交流事業として事業に含める。さらに、東アジア文化都市の重点事業でもある**文化交流**を実施する。
- 既存事業をベースとしつつ、オープニングイベント、クロージングイベント、文化交流等で新規事業を実施する。



6. 実施スケジュール

